世界とつながる教室

学びの場としてのエコツーリズム

海外を飛び回ってエコツーリズムの開発支援を行いながら、
国内では静岡県富士宮市でのインバウンドエコツーリズムを実践している新谷雅徳（しんたにまさのり）さん。
エコツーリズムはそれに参加する人だけではなく、
多くの人たちの学びの場となっているという。

文●久島玲子（編集部）

学ぶことで意識が変わっていく

エコツーリズムとは、その土地にある自然や文化を活かし、環境を保全しながら地域の発展を大事にする観光のあり方。参加者は未知の自然や文化に触れると同時に、その背後にある歴史や保全の必要性など、一般的な観光では体験できない学びを得ることができる。

「エコツアー開発では、参加者だけでなく地元の人たちも学ぶことが多いんです」と言うのは、日本のエコツーリズムの草分け的な存在の新谷雅徳さん。ハワイ島や滋賀県、富士山でエコツーリズム開発を行い、２０１１年からＪＩＣＡの専門家として海外のエコツーリズム開発にも関わってきた。

新谷さんが最も実感しているのは、地域の人たちが自分たちの自然や文化の価値にあらためて気づき、大きく意識が変わるということ。たとえば、ＪＩＣＡ草の根技術協力として京都大学の研究チームと共同で取り組んでいる中央アフリカのガボンにあるムカラバ・ドゥドゥ国立公園のプロジェクト。ガイドの研修などを通して、あらためて森のこと、ゴリラのこと、自分たちの地域のことを考え、主体的に取り組む地域の人が増えてきた。国外からのエコツアー参加者に「素晴らしい森の話をしてくれてありがとう、これからも守っていってください」と感謝され、ガイド自身のモチベーションも上がっている。

一方、イランでのＪＩＣＡの「アンザリ湿原環境管理プロジェクト」には日本工営のコンサルタントチームの一員として携わり、エコツーリズムセンターとなる伝統家屋を村人と建設し、女性ガイドの教育に力を入れている。お土産になる工芸品作りの指導、カヤックのガイド研修も行った。「女性たちは社会的にも経済的にも厳しい環境に置かれていますが、エコツアーが仕事になり、彼女たちが笑顔になることを目指しています」。センターでは女性たちが手作りの工芸品を販売し、お茶や食事を出し、カヤックのガイドを行う。ツアー客にとても好評で、休日には５００人以上が訪れるようになった。

富士宮でエコツアーのよいモデルを体験

海外での経験を積むうちに、世界中から「地域の人がしっかりと関わるエコツアーのモデルを見たい」という声が新谷さんに届くようになった。そこで2年前から、外国人観光客をターゲットにしたインバウンド・エコツアーに富士宮市で取り組んでいる。

「富士山には目に見える美しさだけでなく、その背後に目には見えないけれども山岳信仰、湧水、食といったさまざまな物語があります。それらの背景に誇りを持って仕事をしている地元の人たちと一緒に、富士山の自然、文化、歴史を体験してもらえるツアーです」

富士登山を楽しんだり、着物を着て浅間大社を訪れたり、和菓子作りを体験したり、地元のおばあちゃんに手打ちそばの作り方を教えてもらったり……。地元の呉服屋さん、和菓子屋さん、文房具屋さん、料理屋さんの協力があって実現しているツアーだ。「海外からのお客さんが、地元の人たちの仕事を楽しんでくれるので、もっとこうしたらよろこんでもらえるのでは、といろいろ地域の人とみんなで工夫しています」。

このツアーには、中南米やイランなどの研修生も参加していて、「日本でエコツアーに取組んでいる地元の人と会えてよかった」「地域の素晴らしさを学べた」「（帰国して）地域の人をより広く巻き込んでみたい」という声を聞くことができた。ただ講義をするのではなく、実際の富士山での経験をもとに、ガイドの仕方、地域でのエコツアーの仕組の作り方、紹介ビデオやウェブサイトの作り方、アンケートの取り方など、研修員が期待する具体的なノウハウも提供できるよう進めている。

「エコツアーは地域ごとにプログラムが必要ですが、考え方は同じ。地域の人とともに行うエコツアーとはどういうものなのか、その学びの場として、富士宮をよいモデルにしていきたいと思います」。

身近にある自然や文化などの資源の保全が、現在そして将来において自分たちのメリットにつながることを知った人たちは、自らその資源を守るはず。エコツアーで学ぶのは、参加者だけではない。地域の人たちが、あらためて自分たちの自然や文化の価値に気づくことにこそ、より大きな意味がある。

富士山インバウンド・エコツアー（日本）

富士山周辺では、地域の人たちの力を得て、
自然、文化、歴史と多様な切り口でエコツアーを実施している
https://mtfujiecotours.com/

マウンテンバイクで富士山麓の里山を巡り、地元の人々と触れ合う

着物体験ができるツアーには、
市内の呉服屋さんが協力してくれた

地元のお蕎麦屋さんでは、おかあさんが打った蕎麦と
地元で採れた野菜の天ぷらをいただいた

しんたにまさのり
1968年、兵庫県生まれ。静岡大学卒業。フロリダ工科大学大学院環境学科環境資源マネジメント科修了。エコツーリズムのパイオニアのひとりとして、世界各国でエコツーリズム開発とそれに関わる人材育成に携わる。2008年、エコロジック設立。10か国以上でエコツーリズム開発を支援している。

アンザリ湿原（イラン）

ツアーの参加者からコメントを受ける村の女性たち

伝統家屋を再現したエコツーリズムセンター。運営に携わる女性たちが並ぶ

ムカラバ・ドゥドゥ国立公園（ガボン）

実際の観光客にお願いして、テストツアーをさせてもらっている様子。地元のガイドが自信に満ち溢れている

上：エコツアーのプログラムは自分たちで作る。だから大切にする／左：国立公園内に生息するニシローランドゴリラ